社会で必要とされる力とは（添削例２）

このグラフを読み取ると、学生と企業の人事担当者との間で大きな意識の差があることがわかる。

課題の資料で、学生が「自分に不足していると思う要素」とは、「社会に出て必要とされるレベルと比較して自分に不足している」と学生が考えている要素なのだと思われる。この要素として、学生は、「語学力」「業界に関する専門知識」「簿記」「パソコンスキル」などをあげている。これらの項目は、専門的な知識や技術に関する内容であり、学生は日頃からテストという形で点数化されることに馴染んでいる。そして、入社試験などでも当然問われる能力でもある。

一方、企業の人事担当者が多くあげているのは、「主体性」「粘り強さ」「コミュニケーション力」「一般常識」などだ。これらの項目は、仕事をやり遂げる精神的な面や、他者と協調、協力しながら仕事をしていくための力である。これらは、学校でも重視されな

社会で必要とされる力とは（添削例２）

いわけではないが、数値化して量られるわけではないので、学生はどうしても後回しにしがちになる。

考えてみれば、どんなに優秀な社員がいたとしても、チームの全員が各自の能力を大いに発揮し、それを結集して事に当たるチームカや、そのチームカをさらに高めようとする強い意思がなければ企業の成長は望めない。そのような企業の考えをこの企業の人事担当者の回答から読み取ることができるのではないか。

学生と企業の人事担当者とのこのような意識の違いは、非常に重要な示唆を我々に与えてくれる。これから社会に出ていく私達は、社会ではどのような力が必要なのかをしっかり認識し、「基礎学力」だけではなく、「人間力」「コミュニケーション力」も磨いていけるよう普段から努力していかなければならない。